

## 中期経営計画の着実な推進により さらなる成長を確実なものとしします

このたびJ-POWERの社長に就任した渡部でございます。皆様には日ごろよりご理解とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。社長就任にあたり、この場をお借りしてご挨拶申し上げます。

わが国の電力事業においては、2015年7月に「長期エネルギー需給見通し」が策定され、再生可能エネルギー、原子力、石炭火力等のエネルギーミックス目標が示されるとともに、国際社会に向けた新たなCO<sub>2</sub>削減目標の決定、2016年4月から開始された電力小売の全面自由化と卸規制の撤廃、さらに2020年に予定されている発送電分離など、事業環境が大きく変化しています。

こうした状況を踏まえ、私たちJ-POWERグループは2015年7月に今後10年間のさらなる成長に向けた挑戦を中期経営計画として策定し、挑戦の基本方向を「Ⅰ.自由化が進展する国内市場でさらなる成長の基盤を構築し、コスト競争力を武器に競争に勝ち残る発電事業者となること」「Ⅱ.世界各地のエネルギー事情を踏まえ、その持続可能な発展に貢献する海外発電事業を成長させること」「Ⅲ.気候変動対策に適應すべく石炭火力のさらなる低炭素化に向けた技術開発を加速し、石炭火力発電におけるリーディングカンパニーとして国内外での事業展開を図ること」の3点とし取り組みを開始しました。

足下では、今後の成長戦略を支える石炭火力の低炭素化技術である酸素吹IGCCの実証試験「大崎クールジェンプロジェクト」を2017年3月から開始するべく準備を進めています。また国内では、竹原火力発電所のリプレース工事が順調に進んでいるほか、海外ではタイの発電プロジェクトが2015年までにすべて営業運転を開始し、今後インドネシアでの高効率石炭火力発電所の建設が本格化するところです。このようにJ-POWERグループは中期経営計画の実現に向け一歩一歩着実に前進を始めています。

一方、中期経営計画の達成に向けては、これから具体化を図っていくプロジェクトも数多くあり、私たちは計画の入り口に立ったばかりであるともいえます。私は社長として、今後これらのプロジェクトを着実に具体化し、J-POWERグループの一層の成長を確実にしていく所存です。

「人々の求めるエネルギーを不断に提供し、日本と世界の持続可能な発展に貢献する」という企業理念の下、これからも私たちは全力を尽くしてまいります。

皆様の変わらぬご支援とご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

渡部 肇史

2016年9月

取締役社長